

基調講演

市毛 良枝
(いちげ よしえ)「植村直己さんが教えてくれたこと
～挑戦する心と生きる力～」

静岡県生まれ。俳優。NPO法人日本トレッキング協会理事。誘われて行った初登山が楽しく、自然の魅力にひかれてアウトドア全般に関心を持つ。以来、以前から問題意識を持っていた環境問題にも関心を深め、環境カウンセラーとして登録、第7回環境大臣賞(2025年/市民部門)受賞。初回(2011)より日本冒険フォーラムにゲストとして参加している。パネルディスカッションにも出演。

語り・回想

廣江 研
(ひろえ けん)「我が友 植村直己
～その志と人間力～」

1941年、鳥取県生まれ。明治大学山岳部の植村さんの同級生。入部した1965年当時、30数名いた新入部員は、卒業時、植村さん、廣江さんを含め4名のみに。植村さんとは、大学卒業後も親しく付き合いを続け、植村さんが1984年2月、マッキンリーで消息不明になった時は、第2次捜索隊の隊長を務めた。社会福祉法人こうほうえん会長。

神長 幹雄
(かみなが みきお)パネルディスカッション
コーディネーター

1950年、東京都生まれ。大学卒業後、山と溪谷社入社。雑誌編集部を経て、『山と溪谷』編集長、出版部長を歴任。長年にわたり出版雑誌や山岳書籍の編集に携わる。海外取材の経験も多く、個人的にも60カ国以上を旅する。植村さんをはじめ、多くの登山家と親交があり、共著『日本人とエベレスト』で梅棹忠夫・山と探検文学賞を受賞。日本山岳会会員。

パネルディスカッション・パネリストの皆さん



石川 直樹 (いしかわ なおき)

1977年、東京都生まれ。写真家。高校時代から世界への旅を始める。1998年、20歳でマッキンリー登頂。2001年、当時の最年少記録(23歳)で世界七大陸最高峰登頂を達成。2024年には8,000m峰全14座登頂を完登。その後も世界各地を旅しながら数多くの写真集、書籍などを発表。



栗秋 正寿 (くりあき まさとし)

1972年、福岡県生まれ。登山家。アラスカの大自然に魅せられ、冬季アラスカ山脈の単独登攀に長年挑戦。2007年、フォレイカー(5,304m)の冬季単独登頂に成功。過酷な極寒地における数々の最先端記録を打ち立て、その比類なき情熱と冒険心から、2010年第15回植村直己冒険賞を受賞。世界を代表する極地クライマーの一人。



佐々木 大輔 (ささき だいすけ)

1977年、北海道生まれ。国際山岳ガイド・山岳スキーヤー。ビッグマウンテンスキーの世界大会に出場し、その後は国内外の山岳を舞台にシュプールを残す。ネパール・マナスル(7,400m地点)からの滑降や利尻岳西壁の初滑降、2017年のマッキンリー南西壁の大滑降などを行う。現在は国際山岳ガイドとして、国内外でガイド活動をしている。

私のチャレンジ

豊岡市は「挑戦する」子どもたちを応援します!!

植村直己の「挑戦する心」を豊岡の子どもたちへ

豊岡市では、この夏、この地で生まれ育った冒険家・植村直己さんの精神や人となりや次世代へつないでいく取組の一つとして、市内小学6年生を対象に「私のチャレンジ」コンテストを実施しました。テーマは「挑戦(チャレンジ)」と「植村直己」。大切なのは、植村直己さんの偉業を知ることだけではありません。自分自身と向き合い、「やってみよう!」「挑戦してみよう!」「頑張るぞ!」という思いを持ち、実際にその一歩を踏み出してみること。私たちは、そんな子どもたち一人一人の挑戦を応援したいと考えています。この「私のチャレンジ」が、子どもたちにとって新たな一歩を踏み出すきっかけとなり、ふるさと豊岡で、たくましく、自分らしく成長していくことにつながればと願っています。

植村直己冒険館
Uemura Naomi Memorial Museum〒669-5346 豊岡市日高町伊府785
TEL.0796-44-1515～小さな冒険がココからはじまる～
来て、見て、感じる。

夢に向かってひたむきに生きた植村直己。
その熱き想いを感じる空間へ。



ホームページ



Instagram



チャレンジ応援祭

豊岡市
TOYOOKA CITY

主催：兵庫県豊岡市(植村直己が生まれ育った町) 協力：植村直己冒険館
お問い合わせ：〒669-5391 兵庫県豊岡市日高町祢布920番地 豊岡市役所 日高振興局 地域振興課 地域振興係
TEL.0796-21-9056 FAX.0796-42-1120 E-Mail: hidaka-chiiki@city.toyooka.lg.jp